

## 学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成22年12月14日(火) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

### 発 表 事 項

1. 都市・地域学研究所が山辺町と連携協定締結
2. (株)日本政策投資銀行と連携協定を結びます。
3. AMSで幻のそばを鑑定
4. 目指せ！理系マドモワゼル!! ～理系女子力UPセミナー～

### お 知 ら せ

1. 農学部『東アジア食料生命環境科学国際シンポジウム』
2. 産学官連携やまがたネットワーク(Party21)『月例会(Party-Party)』
3. 大学コンソーシアムやまがた『留学生を対象とした県内企業合同説明会』

(参 考)

○ 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成23年1月5日(水) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

平成22年12月14日  
山形大学

## 都市・地域学研究所が山辺町と連携協定締結

山形大学バーチャル研究所が、初めて地方公共団体との連携協定を締結します。

### 1. 連携協力の目的

都市・地域学研究所と山辺町は、お互いが多様な分野で包括的に連携・協力し、山辺町の活性化や学生のキャリア教育、人材育成の面で連携協力していくことにより、相互の発展をめざします。

### 2. 連携協力の内容

- ①安達峰一郎プロジェクトの推進
- ②安国寺など山辺町の魅力再発見への協力
- ③学生のホームステイ（インターンシップ）
- ④山辺町への助言協力（法律、経済、歴史、都市計画） など

### 3. 連携協定締結までの経緯

都市・地域学研究所がシリーズ化している公開講座「山形の魅力再発見」において、パート6として2008年10月に山辺町出身の安達峰一郎をテーマに公開講座を行いました。これが契機となり、都市・地域学研究所内に「安達峰一郎研究プロジェクト」がスタートし、山辺町との積極的な連携が始まりました。その延長線上にこの度の連携協定があります。

安達峰一郎は、“世界の良心”と称えられる国際法学者で、アジア系として初の常設国際司法裁判所の所長となった人物です。

### 4. 連携協定締結式

日時：平成22年12月21日（火）11：30～12：00

会場：山形大学人文学部第2会議室（人文学部2階）

出席者：山形大学長 結城章夫、都市・地域学研究所長 松尾剛次<sup>けんじ</sup> ほか  
山辺町長 遠藤直幸 ほか

※バーチャル研究所とは：

自主的共同研究の推進を支援し本学の研究活動の活性化を図るために、社会的要請の高い分野、学際的分野、先駆的分野などにおいて学部を横断した自主的共同研究を行う大学認定の研究組織です。

(お問い合わせ)

山形大学人文学部事務ユニット 佐竹

電話：023(628)4201

平成22年12月14日  
山形大学

## (株)日本政策投資銀行と連携協定を結びます。

山形大学は、日本政策投資銀行と連携協定を結び、人材教育交流を通じて国際化等地域社会に貢献します。

### 1. 連携協力の目的

山形大学と日本政策投資銀行は、互いに有する人的、物的資源を活用して、山形大学の国際化を基盤とした地域と地域企業の国際化を支援する等、共に地域社会に貢献します。

### 2. 連携協力の内容

- ① 山形大学の国際化及び国際交流に関する情報の交換
- ② 地域と地域企業の国際化に関する情報の交換
- ③ 勉強会、セミナー等の開催

### 3. 連携協定締結の背景

日本政策投資銀行は、「金融力で未来をデザインします」を企業理念として、地域や自治体そして大学等とのリレーションに基づくネットワークを構築し、豊かな未来の実現に貢献することを目指しています。

また、山形大学では、アジアの優秀な留学生の受入・育成により、グローバル展開を目指す地元企業への就業機会拡大を図る国際人材育成や地元企業と中国企業とのビジネスマッチングを推進する企業の国際展開支援等、大学、地域、地域企業の国際化に取り組んでいます。

その両者が連携することで、地域社会に貢献してまいります。

### 4. 連携協定締結式（本日、学長定例記者会見終了後。）

日時：平成22年12月14日（火） 11：30～12：00

会場：山形大学学長室（山形市・小白川キャンパス）

（お問い合わせ）

企画部社会連携・図書・情報ユニット 矢口

電話：023(628)4840

平成 22 年 12 月 14 日  
山 形 大 学

## AMSで幻のそばを鑑定

高感度加速器質量分析装置（AMS）で幻の「天保のそば」を鑑定した結果、約 170 年前のそばの実であることが確認されました。

この度の鑑定は、本学総合研究所（上山市金瓶）の「高感度加速器質量分析装置（AMS）」を用いて、幻のそば「天保のそば」の年代測定を実施できないか、「山形天保のそば保存会」会長の鈴木邦昭氏（そば屋惣右ヱ門）に依頼したところ、ご快諾いただきサンプルの提供を受けられたことにより実現しました。

AMSを用いて、そばの実の年代測定を実施するのは、通常用いられている木柱、木の実、古代米と違って、殆ど例のない画期的な試みです。

その結果、そばの実の年代は確率の最も高い年代範囲に着目すると 69%の確率で 1812 年から 1919 年の間に植生したと考えられ、言い伝えのある天保の年代範囲（1830 年から 1843 年）と一致する結果を得ることが出来ました。

「天保のそば」とは、

平成 11 年、当時鈴木製粉の社長 鈴木彦市氏（故）のもとに一握りの「ソバの実」とともに一通の手紙が届きました。ソバの実は、福島県大熊町の横川一郎さん（当時 84 才）方で旧家を解体した時に屋根裏に俵ごと保管されていたものでした。

江戸時代後期に、冷害凶作にみまわれ餓死者が続出したとされる、世に言う「天保の大飢饉」の頃。同じ思いを子孫にはさせまいと、貯蔵食として天井裏にその俵を保管したもので、代々言い伝えられ大切に保管されてきたものだそうです。

間もなく、鈴木氏のもとに種子を送ってきた友人から、大学や研究機関に送り発芽試験を依頼したものの、「すべての種子で胚は発芽活性を喪失、成長能力は無い。」との報告が届いたと連絡がありました。しかし、鈴木氏は一縷の望みをかけて仲間のソバ職人たちに声をかけ、発芽の試みに挑戦しメンバーらの努力により、この山形の地で見事に発芽させました。

「天保のそば」が永い眠りから覚め、奇跡的に現代に蘇ったのです。

（詳細は、「幻の山形天保そば保存会」の資料をご覧ください。）

（お問い合わせ）

理学部物理学科 准教授

門叶冬樹（とかない ふゆき）

TEL: 023 (628) 4554

# “天保のそば”の年代測定報告書

山形大学 YU-AMS グループ  
門叶 冬樹、加藤 和浩、庵下 稔、和泉 彰紘

2010年11月3日

## 1. はじめに

山形市の製粉会社「鈴木製粉所」で保管されている“天保のそば”由来のサンプルについて加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。図1にサンプルのソバの実の写真を示す。



図1. “天保のそば”に由来する「ソバの実」のサンプル。

## 2. 試料の処理

「ソバの実」サンプル3粒（約3.7mg）を、山形大学総合研究所4階の試料作製室にて純水超音波洗浄、アセトン超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理による前処理作業を行った。続いて、元素分析計、質量分析計、ガラス真空ラインより構成されるグラファイト調整システムにて、グラファイト化を行った。その後、総合研究所1階に設置した加速器質量分析計（YU-AMS: NEC 製 1.5SDH）を用いて放射性炭素年代を測定した。得られた $^{14}\text{C}$ 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{14}\text{C}$ 年代、暦年代を算出した。

## 3. 結果

表1に「ソバの実」（ラボコード YU-61）について得られた同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した $^{14}\text{C}$ 年代、 $^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代範囲を示す。図2にはその暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うた

めに記載した。

表1 “天保のそば” に由来する「ソバの実」の放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
YU-61 (ソバの実)	-33.02 $\pm$ 0.48	88 $\pm$ 19	90 $\pm$ 20	1699AD (21.0%) 1721AD 1818AD (13.4%) 1833AD 1880AD (33.8%) 1916AD	1693AD (26.4%) 1728AD 1812AD (69.0%) 1919AD

図2. “天保のそば” に由来する「ソバの実」の暦年校正結果。

#### 4. 考察

“天保のそば” に由来するソバの実のサンプルについて AMS 測定を行い同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。得られた暦年代範囲の中、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、1812–1919 calAD(69.0%)であった。1700年から1900年は宇宙線の強度の変動が激しく、放射性炭素年代測定から暦年代に校正するときに難しいとされてきたが、本AMSによる高精度測定によって、言い伝えにある天保の年代範囲（1830年から1843年）と矛盾しない結果となった。

#### ==== 年代測定の考え方 ====

$^{14}\text{C}$ 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 $^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP) の算出には、 $^{14}\text{C}$ の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した $^{14}\text{C}$ 年代誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の $^{14}\text{C}$ 年代がその $^{14}\text{C}$ 年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。暦年較正とは、大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度が一定で

半減期が 5568 年として算出された  $^{14}\text{C}$  年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度の変動、及び半減期の違い ( $^{14}\text{C}$  の半減期  $5730 \pm 40$  年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。 $^{14}\text{C}$  年代の暦年較正には OxCal14.1.7<sup>1)</sup> (較正曲線データ: Intcal09<sup>2)</sup>) を使用した。なお、 $1\sigma$  暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された  $^{14}\text{C}$  年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に  $2\sigma$  暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は  $^{14}\text{C}$  年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

#### 参考文献

- 1) Bronk Ramsey, C. (2009). Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 2) Reimer, P. J., Baillie, M. G. L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Burr, G. S., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hajdas, I., Heaton, T. J., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., McCormac, F. G., Manning, S. W., Reimer, R. W., Richards, D. A., Southon, J. R., Talamo, S., Turney, C. S. M., van der Plicht, J., & Weyhenmeyer, C. E. (2009). IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP. *Radiocarbon*, 51(4), 1111-1150

## 天保のそばの経過（平成22年12月7日試食会資料）

平成11年、当時鈴木製粉の社長鈴木彦市氏（故）のもとに一握りの「ソバの実」とともに一通の手紙が届きました。ソバの実は、福島県大熊町の横川一郎さん（当時84才）方で旧家を解体した時に屋根裏に俵ごと保管されていたものでした。

手紙には「天保のそば」かもしれないものです、よろしく発芽試験お願いいたします。という文面が添えられていました。当時、鈴木氏がソバの実を手にしたところ「乾燥や傷み」がひどく、とても発芽するとは思えない」というのが感想でした。

間もなく、鈴木氏のもとに種子を送ってきた友人から、大学や研究機関に依頼した発芽テストでは「すべての種子で胚は発芽活性を喪失、成長能力は無い」という報告が届いたという連絡がありました。

しかし、鈴木氏は一縷の望みをかけて仲間のそば職人に声をかけました。

ソバの実は、3重の俵で包まれ、俵と俵の間は灰汁（あく）で覆われていました。ネズミや害虫の侵入を防いだものと思われました。

山形での結論は、160年間同じ状態で眠っていたのだからなるべくその状態に近づけてやろうということでした。

そば職人たちは、営業の終わった後、石臼館に集まり、炭を砕き灰汁を持ち寄って、土と砂に混ぜた土壌を作りプランターに一粒一粒播いたのです。

「ソバを播くときは水はいらない」という昔からの言い伝えを守り、種子に直接水は掛けないで絞ったミズゴケを敷く程度にとどめました。

そして、白い幼根が出て子葉が伸びてきたときには本当に感動しました。

弱り切っている種子を、シャーレに入れて水と温度で発芽テストをした研究機関のやり方より、経験と知恵を採用した職人たちのローテクが天保のソバの発芽には合っていたのかもしれない。

山形でのこの方法を福島の方々に知らせました。福島でもやはり発芽しました。

しかし、福島では花の咲くところまではゆきましたが、播種の時期が遅かったので結実までには至りませんでした。山形にだけしか残らなかったのです。

以後、志を同じくする人たちで「天保のそば保存会」を作り今日に至っております。

まず、酒田市の飛島に畑を借りて「原種」を栽培しています。ここでは離島ゆえに交雑の心配がなく純粋な原種が保たれます。

平成15年からは、島民の日ごろの応援にお礼を込めて飛島で収穫感謝祭を毎年行っています。厨房一式をチャーター船に積んで飛島で3たてを振舞っています。

島民とはお互いに顔みしりになり、交流の輪が広がってきました。

先日は、国で進めている「離島振興」に協力して、新しいにぎわいを創出していると評価され感謝祭への助成支援をいただきました。思いもかけないことでした。

また、酒田市内の農家のグループで、飛島特産の「ごど芋」を作っている人達と協力し合う関係も生まれています。

栽培地も西蔵王、月山山麓、鮭川地区、それに庄内の農家が栽培に手を挙げてくれています。栽培面積も少しずつ増えてきています。

天保のそばは、発見当時の状況や横川家に伝わる文書や言い伝えから 99%江戸時代の種子に間違いないと確信していますが、現在、科学の力を借りて「種子の年代測定」をおこなっています。また、農水省の農業生物資源研究所のDNA管理情報科では以前に天保のそばの「葉」からDNAを取り出しています。

天保のそばの草姿？は、現在の改良されたソバと比べるとまるでワイルド。勝手に伸びています。それだけ収穫は手間がかかります。

種子は形も大きさもさまざま、色も黒系、茶系などなど特徴的には15系ぐらいに分けられます。研究者によるとそばの先祖たるゆえんが見て取れるということです。

「味」は-----職人たちが惚れてしまったのです。

平成19年には、「幻の山形天保のそば」として商標登録が確定しています。今年も乾麺にも挑戦しました。

今後については、もう少し収量を上げるにはどうしたらよいか。

店で、もっと美味しく食べてもらうにはどのような形で提供したらよいか、など多くの課題に悩みながらも少しずつ前に進んでいます。

そして「会」では、この天保のそばを通して山形に生まれた新しいそば文化の発信と食によるこの地の交流等に少しでも貢献できればと考えています。

そして、時代を超えて蘇った天保のそばをしっかりと守り、後世に伝えて行くことは最も大切なことと思っています。

天保のそばが、天保の時代のあの大飢饉において、人々の命を紡いできたことに思いをはせ、「食」に感謝する心を忘れないようにしていきたいと思っています。

今日の天保のそばは、会員の夢とロマンのせて打ち込んだものです。

会員一同

平成22年12月14日  
山形大学

## 目指せ！理系マドモワゼル！！ 理系女子力**UP**セミナー

可愛くおしゃれに理系を目指してみませんか？

日時：平成23年1月19日（水）13：30～19：00  
会場：山形大学工学部 中示範C教室（米沢市・工学部キャンパス）  
プログラム：（詳しくは、別添の資料をご覧ください。）

①理系マドモワゼル講演会

女性研究者として第一線で活躍されている先生方の招待講演です。

②理系女子力UPセミナー・理系女子ライフ photo コンテスト  
カワイイ!!ステキ!!理系女子研究生生活の魅力とは!?

③理系女子懇親会（男性の参加も歓迎します。）

（工学部教授会室、会費2,000円（学生500円））

今回のセミナーでは、女子学生が肩肘張らずに研究をやっているモチベーションを作るため、現在、第一線で活躍している新進気鋭の女性研究者に研究や日常的に考えていることなどの話題提供の後、参加者と一緒に理系女子について考えます。

研究室活動や就職活動などをおして、研究者って何だろう？と考えている女子学生のみなさん、もちろん、男性の参加も、どなたでも歓迎します。

ぜひ気軽にお立ち寄りください。

（お問い合わせ）

山形大学工学部機械システム工学科  
古川英光研究室 日出間るり  
電話：0238（26）3197

# 目指せ!

Mademoiselles Seminar for  
Career Paths in Science

# 理系マドモワゼル!!

# 理系女子カUPセミナー

13:30~15:30

山形大学工学部 講義棟 中示範C教室

①理系マドモワゼル講演会

## 流れと界面が創る生体機能

13:30  
~14:30

大島まり先生(東京大学)

『循環器系のマルチスケールシミュレーションと可視化計測』

14:30  
~15:30

三浦佳子先生(九州大学)

『精密糖鎖高分子界面を用いた機能材料の設計』

女性研究者として第一線で活躍されている先生方の招待講演です。

日時

2011

1/19

水

13:30~19:00

16:00~17:00

山形大学工学部 講義棟 中示範C教室

②理系女子カUPセミナー

## 理系女子ライフphotoコンテスト

講演者

大島まり先生(東京大学)

三浦佳子先生(九州大学)

八塚京子先生(山形大学)

日出間るり(PD)(山形大学)

カワイイ!! ステキ!!  
理系女子研究生活の  
魅力とは!?

17:30~19:00 山形大学工学部 講義棟 会議室

③理系女子懇親会 ※男性の参加も歓迎します。

会費

2,000円 (学生500円)



振興調整費

主催:山形大学工学部

共催:山形大学男女共同参画推進室

連絡先

山形大学工学部 機械システム工学科  
古川英光研究室 (工学部6号館411室)

〒992-8510 米沢市城南4-3-16 TEL/FAX:0238-26-3197

担当:日出間るり(PD)

E-mail: hidema@yz.yamagata-u.ac.jp

# プレス通知資料（概要）

---

平成22年12月14日  
山形大学

## 1. 農学部『東アジア食料生命環境科学国際シンポジウム』

(概要) インドネシア(ガジャマダ大学)、ベトナム(ハノイ農業大学)、タイ(キングモンクット工科大学)、中国(中国農業大学・延辺大学)、韓国(大邱大学)、日本(岩手大学・山形大学)が参加して、東アジアの環境科学、生命科学、食料科学の現状と今後を考えます。

日 時:平成22年12月17日(金) 9:00~17:15

場 所:東京第一ホテル鶴岡 2階・鶴の間(鶴岡市錦町 2-10)

対 象:どなたでも参加できます。(無料・申込不要)

[ 詳しくは、別添の資料をご覧ください ]

問い合わせ:山形大学農学部事務ユニット総務担当

(TEL) 0235-28-2805

## 2. 産学官連携やまがたネットワーク(Party21)『月例会(Party-Party)』

(概要) 産学官連携やまがたネットワークは、平成12年9月に職域や組織の枠を越えたオープンマインドな交流環境の創出とインキュベーション活動の展開を目的に設立され、幅広い人的ネットワークづくりを目指してきました。

今回は、天童市のアイデンティ株式会社 後藤社長さんから山形県リサイエンス研究会で取り組むエコフィードの話題を提供いただきます。

日 時:平成22年12月20日(月) 18:00~20:00

場 所:ダイニング&カフェ ゆず(上山市二日町 6-1)

<http://kaminoyamania.blog87.fc2.com/blog-entry-168.html>

会 費:2,500円(軽食・飲み物付き)

問い合わせ:山形大学工学部研究支援室 金生

(TEL) 0238-26-3004

### 3. 大学コンソーシアムやまがた『留学生を対象とした県内企業合同説明会』

(概要) 県内企業の海外展開等の担い手を確保することを支援する観点から、県内企業と留学生との接点づくりの取組みを進めています。

この取組みの一つとして、下記により留学生を対象を絞った県内企業合同説明会を開催いたします。

日 時:平成23年1月22日(土) 10:00~13:00

場 所:山形市保健センター大会議室(霞城セントラル3階・山形市城南町 1-1-1)

プログラム:

①企業ブース形式での合同企業説明会(約120分)

②立食パーティによる留学生との交流会(約60分)

[ 詳しくは、別添の資料をご覧ください ]

問い合わせ:山形県経済交流課(経済交流担当) 阿部

(TEL) 023-630-2366

### 4. これまでの学長定例会見でお知らせをしたもので開催がせまっているイベント

当日の取材をよろしくお願いいたします。

#### ○工学部百周年記念講演『人生を決めた15分—創造の1/10, 000—』

日 時:平成22年12月14日(火) 14:20~15:50 《本日》

場 所:山形大学工学部 大示範教室(米沢市・工学部キャンパス)

講 師:奥山 清行 氏

(山形大学客員教授・工業デザイナー/KEN OKUYAMA DESIGN 代表)

入 場:無料・申込不要、どなたでもお気軽にご参加ください。

問い合わせ:山形大学工学部システム創成工学科事務室

(TEL) 0238-26-3248

#### ○大学コンソーシアムやまがた「やまがた夜話」

日 時:開催日は下記のとおり(毎週水曜日) 18:30~19:30

場 所:ゆうキャンパス・ステーション(山形市:山形むらきさわビル1階)

対 象:高校生・学生・一般市民 定員50名(参加費は無料です。)

第7回 12月15日(水) 阿部 眞栄 氏 山形駅前大通り商店街振興組合理事長  
(未定)

第8回 12月22日(水) 温井 亨 氏 東北公益文科大学大学院 准教授  
「共創・協働のまちづくり—上山市中心街の事例から—」

問い合わせ:大学コンソーシアムやまがた事務局(樋口、小玉)

(TEL)023-628-4842

○特別展「疋田豊治ガラス乾板写真展」

期 間:開催中 ～ 平成22年12月17日(金)9:00～17:00(最終日は、15:00閉館)

場 所:山形大学小白川図書館1階 シアタールーム(山形市・小白川キャンパス)

問い合わせ:山形大学附属博物館

(TEL)023-628-4930

○地域教育文化学部「うんまい弁当」販売(最終日)

日 時:平成22年12月17日(金) ①11時30分～ ②12時15分～

販売場所:大学会館前

販売食数:各日150食(①75食、②75食)

販売価格:310円(デポジット容器代10円を含む)

問い合わせ:山形大学地域教育文化学部

生活総合学科食環境デザインコース 三原、楠本、矢口

(TEL)023-628-4420、4464、4333

○F Dシンポジウム『学生主体型授業の冒険』

日 時:平成22年12月19日(日) 13:00～16:50

場 所:山形大学東京サテライト 1階国際会議室

(キャンパス・イノベーション・センター東京・東京都港区芝浦 3-3-6)

定 員:先着100名(申込期限/12月10日(金))

問い合わせ:山形大学高等教育研究企画センター

(TEL) 023-628-4707

○大学院理工学研究科『ウインター・サイエンス キャンプ』((独)科学技術振興機構)

「有機の光で照らしてみよう～有機ELを作る～」

日 時:平成22年12月23日(木・祝)～12月25日(土)

場 所:山形大学大学院理工学研究科

有機デバイス工学専攻 有機エレクトロニクス研究室

問い合わせ:山形大学工学部研究支援室

(TEL) 023-628-3004

# 2010 山形大学農学部

## 「東アジア食料生命環境科学国際シンポジウム」

International Symposium on Food, Life, and Environmental Sciences in East Asia  
- Present and Future -

日時

2010年12月17日(金) 午前9時～午後5時15分

場所

東京第一ホテル鶴岡(2階・鶴の間)

参加費

無料

申込み

不要

懇親会

懇親会出席希望者は、12月10(金)までに以下の問い合わせ先へお申込み下さい。  
会費は2,000円です。



問い合わせ先

山形大学農学部事務ユニット総務担当 TEL 0235-28-2805 FAX 0235-28-2812

参加国	インドネシア(ガジャマダ大学)、ベトナム(ハノイ農業大学)、タイ(キングモンクット工科大学)、中国(中国農業大学・延辺大学)、韓国(大邱大学)、日本(岩手大学・山形大学)
内容	9:00～9:05 開会挨拶 山形大学長 結城 章夫 9:05～9:35 基調講演 山形大学農学部長 安田 弘法 演題「Towards a New Asian Era in the 21st Century: Food, Life, and Environmental Sciences」 9:50～11:50 セッション1「東アジアの環境科学の現状と今後を考える」 13:00～15:00 セッション2「東アジアの生命科学の現状と今後を考える」 15:10～17:10 セッション3「東アジアの食料科学の現状と今後を考える」 ※各セッションとも、5～7名の講演者による発表と討論を予定 17:10～17:15 閉会挨拶 山形大学農学部国際交流委員会委員長 安藤 豊 18:00～20:00 懇親会
主催	山形大学農学部
共催	岩手大学大学院連合農学研究科
後援	山形県・鶴岡市・酒田市・慶應義塾大学先端生命科学研究所・東北公益文科大学・鶴岡工業高等専門学校(予定)

※ 使用言語は原則として英語です。

# 留学生対象「県内企業合同説明会」 参加企業募集！

山形県では、県内事業者の海外展開等の担い手を確保することを支援する観点から、必要な資質を有し、かつ県内企業が人材としての資質を見極める機会を持ちやすい「留学生」にスポットを当て、県内事業者と留学生との接点づくりの取組みを進めています。

この取組みの一つとして、下記により留学生を対象を絞った県内企業合同説明会を開催いたします。

海外展開や国際化を検討されている県内企業の方の、積極的な参加をお待ちしております。



- |         |  |
|---------|--|
| 1 事業名   | 「留学生を対象とした県内企業合同説明会」   |
| 2 主催    | 山形県、国立大学法人山形大学、大学コンソーシアムやまがた、<br>ジェトロ山形、山形県経済国際化推進協議会  |
| 3 日時    | 平成23年1月22日（土） 午前10時00分から   |
| 4 場所    | 山形市保健センター大会議室<br>山形市城南町 1-1-1（霞城セントラル 3F）  |
| 5 内容    | プログラム（予定）<br>（1）企業ブース形式での合同企業説明会（約120分）<br>（2）立食形式による留学生との交流会（約60分）<br>※参加する学生は県内の留学生（国籍不問）のみです。 |
| 6 参加費用  | 無料   |
| 7 申込み方法 | 別紙の申込書によりFAXで申込みいただきます。<br>なお、会場の制約により定員12社となり次第、締切りといたします。                                      |

## 【申込み・問合せ先】

山形県経済交流課（経済交流担当） 阿部  
電話：023-630-2366 FAX：023-630-2367

## 【締切り】

平成22年12月28日（火）

# 留学生を対象とした県内企業合同説明会

## 申 込 書

申込先：山形県経済交流課 阿部宛

FAX: 0 2 3 - 6 3 0 - 2 3 6 7

●企業名

---

●所在地

---

●担当者役職・氏名

---

●電話番号

---

●FAX 番号

---

●Eメールアドレス

---